おいしい 米づくり情報

STOP 農作業事故!!
春の農作業安全運動展開中(4/1～6/10)

No.3
令和８年５月１日発行
ＪＡてんどう
天童市農業技術指導会議

▶今後の気象

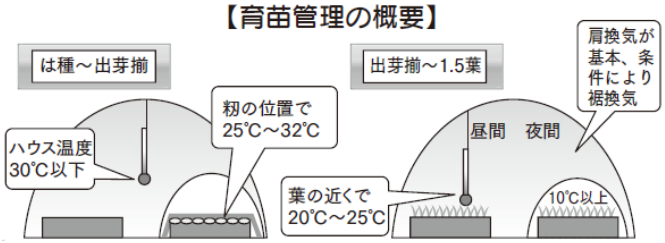
４月 23 日発表の東北地方の１か月予報（４月 25 日～５月 24 日）では、平年に比べて晴れの日が多く、気温は**平年より高く**、日照時間は平年並か多い見込みです。

▶健苗育成　ヤケ苗・ムレ苗・徒長苗を発生させないために

・生育ステージに合わせた温度管理を徹底しましょう。（育苗障害や病気の発生を防ぎ、健苗を育成しましょう。）

太陽がでるとハウス内温度は急激に上がります。苗がヤケやすい状況になるため注意しましょう。

【育苗管理の概要】



・緑化期以降の管理

温度管理・・・日中はハウスの両脇を解放してハウス内温度の上がりすぎを防ぎましょう。
ハウスのビニールを新しく張り替えた場合、ハウス内の温度が上がりやすいので注意！

水 管 理・・・かん水は朝８時頃までに行う。午後や特に夕方のかん水は、地温を下げ根張り不良やムレ苗の原因となるのでなるべく行わない。

田植え前１週間は、夜間もハウス・トンネルを開放して苗を外気に慣らしましょう！（降霜の心配がない場合）

近年、初期生育量不足になる圃場が見られます！！健苗の移植でスタートダッシュを！！
※ 徒長苗は健苗よりも初期生育量の確保が難しくなります。

▶代かき・・・・・作業後の高低差を±３～４ｃｍ以内に

・田面が平らでないと活着の遅延や欠株の発生、除草剤の効果の低下や薬害発生の原因になります。代かきの時期は、移植の 2～3 日前が適期です。

・代かきから移植までの間が長すぎると、雑草の発生が多くなります。また、代かき直後に移植すると苗の埋没や浮き苗による欠株を生じます。

・本代の前に粗くかくことで、代かきの効果（田面を平らにする・水漏れを防ぐ等）を高めます。

・本代をゆっくり丁寧に行うことで、ワラが浮くのを防ぎます。

▶田植え　田植えは風が弱く、天気の良い日に

・１株苗数は３～４本、植え付け本数が多いと過繁茂になり、細茎化による倒伏や品質低下を生じやすくなるため注意しましょう。

・２～３cm の植え付け深さ、深植えは分げつの発生が抑制され、初期育成が劣ります。また浅植えは浮き苗や除草剤の薬害発生の原因となります。

余った苗（補植苗）は、圃場に置いておくといもち病の発生源となります。
補植は除草剤散布前に行い、補植終了後は直ちに処分しましょう。

▶育苗箱施用剤・・・箱処理で予防防除の徹底を

近年、抵抗性いもち病が増加しており蔓延が心配されますので必ず施用ください！！

薬剤名	使用方法	対象病害虫
ブーンパディート箱粒剤	は種時（覆土前）～移植当日に１箱当たり**５０ｇ**を育苗箱の上から均一に散布する。	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ

▶田植え後の水管理

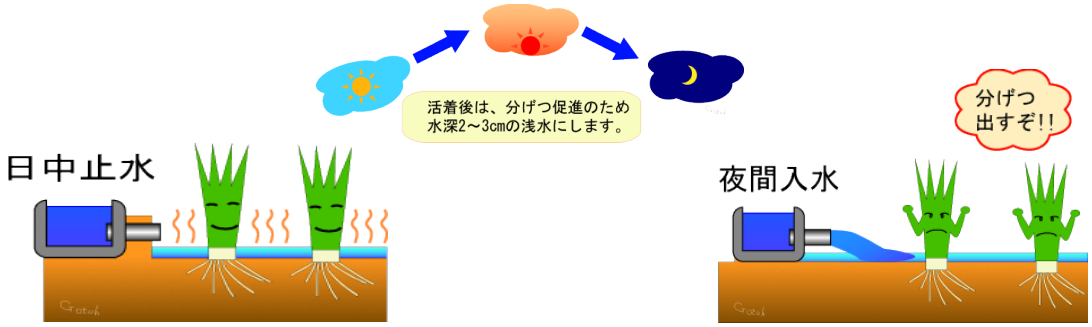
特に、「雪若丸」は初期茎数の確保が重要!!

・田植え後→水深**３～４cm**で活着を促進させます。

・活着後→水深**２～３cm の浅水管理**で地温を高め、昼夜の温度較差により**分げつを促進**！

・圃場内の水温を維持するため、入水は温度変化の少ない夜間または早朝に行います。

・強風や低温が続く場合は一時的に深水とし、稲を保護しましょう。



▶基本に忠実に効果的な除草剤の使用を心がけよう！

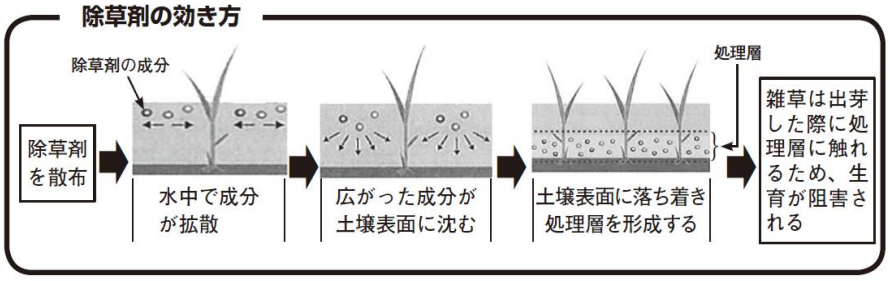
・雑草の発生を抑える働き・・・・・初期剤、初・中期一発剤等に多く含まれます。

・生えている雑草を故殺する働き・・・・・中・後期剤に多く含まれている。

ポイント１
水管理で長い効き目

・ラベルに記載されている水深まで湛水し散布しましょう。

・田面が露出する前にゆっくりと入水しましょう。



※除草剤により適切な水深が異なるため注意して下さい。

※入水の際は水をあふれさせないように注意して下さい。

ポイント２　本田準備で効果を高める

・田面の凹凸は除草効果の低下や薬害発生の原因になります。耕うん・代かきは田面を均平にしましょう。

・畔塗りを行い、漏水を防ぎましょう。（薬剤が本田から流れ出るのを防ぎ、効果を安定させる）